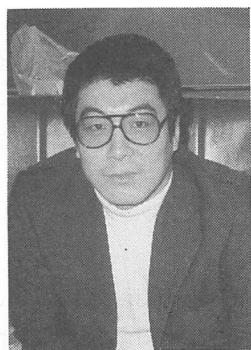


監督回顧録

Be Tough !

藤田 裕充



拙文が50周年記念誌の1頁を飾ることになるとのお知らせをいただき、稚拙な文章と内容にはなりますが、喜んで回想の幾つかを書くことにしました。皆様が想起する数々の出来事に加えていただければ幸甚ではあります。

1. 出会いに感謝！

歴代の監督が、諸先輩が、関大レスリング部の創設から躍進へ、感動から指導的立場へ、50年の歴史と伝統を作り上げました。そのレスリング部に私の名も連なると思うと、嬉しくもあり、誇りでもあります。

昭和20年（1945）5月27日。私の誕生日。その3年後に関大レスリング部が産声を上げたのでした。その関わりは、重ね合わせますと、私自身の成長とともに、青春時代を生きた前半生でもありました。

高校3年生のときにレスリングに出会い、魅入られました。生来私に合ったスポーツだったのか、昭和39年（1969）入学と同時に、綺羅星のごとくいる諸先輩の仲間入りがしたくて、喜々として入部しました。佐々木敬監督のご指導のもとに、小さな巨人故村山栄治主将を筆頭に、あるときには、先輩として、兄として、またあるときには、仲間

として、友として、ライバルとして、そして弟のようにして、一致団結した青春でした。

個人的には、関西選手権大会、国民体育大会、全日本選手権大会、世界選手権大会、米国留学などの経験を得ましたが、すべてはレスリングと出合わなかったならば、不可能であった事柄を、数限りなく実現させていただきました。しかし皆が団結して燃えたのが、やはり、リーグ戦でありました。いまなお破られていない記録・春秋西日本学生レスリング連盟リーグ戦12連覇の金字塔（昭和39年春季～44年秋季まで）。この偉業の達成のために、1年生のときから、参加できました。でも最大の財産は素晴らしい仲間と4年間を一緒に過ごせたことでした。

2. 頑張りに乾杯！

昭和45年（1970）卒業し、伴先生のご指導のもと、コーチとして現役部員と一緒に成長させていただきました。しかし我々も学園紛争に翻弄され、レスリング部が存続できるかどうかのピンチに立たされました。

伴先生はじめ諸先輩の叡智を持ってしても、部員が入部せず、危急存亡の秋でありました。そのときの心細さ、孤独のなかにあって、孤軍奮闘してくれたのが、飯田秀雄君でありました。飯田君の頑張りが、粘着力のある接着剤となって、50周年を無事に迎えられることになり、関大レスリング部が未来に向かって前進し、新たなページを作り続けることができたのであります。飯田君に乾

杯! どうもありがとう。

3. 現役に感動!

昭和39年から平成9年まで、選手、コーチ、監督として関大レスリング部に携わってきましたが、退いたいま、その現役時代とコーチ・監督時代を思い起こせば、なんと多くの諸先輩から、また実に多くの後輩たちにも、教わり、学び、喜びと感動を与えていただきました。まさに夢のごとしではありますが、これは地に足のついた、現実の果報でした。

残念ながら、私の監督時代には、「関大の黄金時代」は昔の語り草のごとく過ぎ去っていました。1部リーグの優勝どころか、2部に定着してしまい、諸先輩の期待を裏切ってしまう、迷惑をおかけしたことになります。

しかし、人間としての、仲間としての、現役部員には恵まれました。いつの「年」にも、夢と希望と感動を、彼らの一人ひとりから貰いました。あの年、あの部員、あの出来事、振り返れば私の胸は溢れるばかりです。この「思い」は実に私のものです。その確かな手応えに、いつもながら微笑みを浮かべつつ納得しております。

また私事にわたれば、「知力」「気力」「体力」「情熱」を練成してくれて、さらに「生きる力」のすべてを育成してくれた「レスリング」に感謝しております。

4. これからの現役諸君にエール!

やはりこの言葉を贈ろう。

Be TOUGH !

これは、私が、コーチ・監督時代のすべての現役部員に贈ってきた言葉です。気障ではありません。誠に素朴なことです。実に簡単なことです。あなた次第でどうにもなることだからです。これからの現役諸君。どうか、Be TOUGH! になっ

ださい。そこから必ず何かが始まります。あなただけの何かが生れます。

新たな伝統を作り上げる後輩諸君に、あなた自身の、あなただけの、「何か」を作ってください。そしてその「何か」があなたの歴史の1ページを飾ることを祈っています。継続は力なりと言われますが、4年間は短いもの、少しでも楽しいレスリング経験を、仲間とともに語ってください。

縁あって、関大レスリング部に入った我々は、すべてが、レスリング家族、レスリング仲間、そして知己の友です。一人ひとりがひとつずつのエピソードを語っても、語り尽くせぬ喜びになります。「50周年を迎える、カイザー関大レスリング部に、永遠あれ!」

◇

監督時代、すべてのOB諸兄には、限りないご厚情と、ご支援を賜りました。末尾になりましたが、この機会をおかりしまして、御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

(昭和45年卒)

関西大学レスリング部コーチ
 関西大学レスリング部監督
 大阪府レスリング協会理事
 西日本学生レスリング連盟常任理事
 (歴任)

〔編集部注解〕

藤田さんは、本来なら昭和43年の卒業になりますが、本学の3年次のときから2年間、米国のユタ州のポリガムヤング大学にレスリング留学しました。そのため関大の卒業は帰国後を経て昭和45年です。彼のモットーは常に「Be Tough !」でした。その内容を余すことなく伝える「監督所感」(平成2年度「OB会つどい」)があります。その触りと、それに応えた現役所感を引用します。

◇

すでに皆様もご承知のように(1990年度)春のリーグ戦において、2部とはいえ他大学をまったく寄せつけず堂々と優勝をはたし、入れ替え戦においても、名商大を問題にせず圧倒たる勝利で1部昇格を決定付けました。……もし機会があれば、OB諸兄にも、こういう場面で声を限りに応援していただき、昔日の関大レスリング魂を思い出していただければ幸甚であります。……しかし監督として嬉しいことは、全員が真面目に練習に取り組み、4年生になると立派な社会人になるべく、胸を張って旅立って行くことであります。社会人1年生諸君。Be Tough ! (藤田)

◇

この年の現役活動報告が「体育会誌」(1991年度)に次のように記録されている。

◇

〔活動報告〕

長いトンネルを抜け、念願の1部リーグ復活を遂げた我らレスラー達、それは安田新体制を迎えた昨年3月より、1日5時間という体育会きっての練習量を誇り、血の滲むような毎日の練習に耐えた者のみか知る喜びであった……。

〔主将安田忠典「雑感」〕

みなさーん。本当に長い間、ありがとうございます

ました。私は、4年間、目一杯闘いました。最後は、立っているのがやっとでしたが、こいつら(後輩)も強くなりました。安心して後を任せて行けます……。

〔次期主将前田利樹「4回生の方へ」〕

ご苦労さまでした。先輩方と共に築いた関大レスリング部の新たな歴史、忘れることはないでしょう。あの感動の涙も。それを守りつづけるのは、我ら後輩の役目です……。

〔合宿日記〕

……今年は春季リーグ戦で1部復帰を果たしてしまっただけに、OB達の目の色が違う。ますますヤバイことになったもんだ。初日から伴総監督、藤田監督、横山コーチの3首脳が合宿所に飛び込んで来られた。10泊11日の合宿フル参加である。我らは自ら「死」を選んでしまったのだ。朝練5時間、午後練3時間、合わせて8時間。過酷な練習が日々続く……。

◇

現役諸君は藤田イズム「Be Tough !」に大いに応えた。そして藤田監督の後任に横山さんが就任し、さらにこの年の安田主将が、その横山監督を支える、新コーチを引き受けることになった。藤田さんの喜びとするところだろう。(完)



写真▷「藤田さんを囲む会」・1998年3月7日